

# トリコデソイル<sup>®</sup>

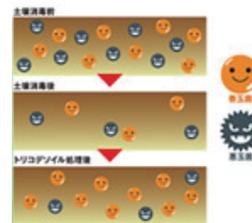
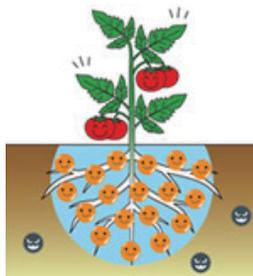
有用微生物入り土壌改良資材



商品の内容	: トリコデルマ・ハルジアナム菌 T22 株
成分	: トリコデルマ・ハルジアナム 1.0×10 <sup>9</sup> (孢子 / 製品 g)
規格	: 250g (小箱入り)
使用量	: 250g/10a 約3ヶ月毎に処理
施用方法	: 壌灌注 (500 ~ 2,000 倍に希釈) * 灌水チューブにも適用可 育苗灌注 (セル、水稲マット育苗)
有効期限	: 2~10℃以下の冷暗所で5ヶ月保存可能
法的区分	: 微生物資材 (非農薬、非肥料)

## [トリコデソイルとは]

- 有用微生物 トリコデルマハルジアナム T-22 株を製品 1g 当り 10<sup>9</sup> 個の孢子を含み、ICM (総合的作物管理体系) に適した土壌改良資材です。
- 栽培期間を通じて根の周りを守り、土づくりをサポートすることで作物の健全な生育を促します。
- 土壌消毒後に有用微生物を投入することにより、病害の発生しにくい土壌環境にする資材です。
- 根圏に有用菌を入れることで、作物の健全な生育を助けます。



作物の根の周り (根圏) は根から分泌される有機物などの栄養素が豊富にあるので、土壌微生物が繁殖しやすい環境といえます。

土壌微生物の中には、ピシウム菌・リゾクトニア菌・フザリウム菌などのように作物に寄生して害を及ぼすものもいます。

そこで、作物に害を及ぼさず、生育が旺盛なトリコデルマ菌 (善玉菌) を根の周りの栄養素を使って増殖させることで、害のある微生物の増殖を抑え、作物の生長を促します。

# トリコテソイル<sup>®</sup>

有用微生物入り土壌改良資材

## [特長]

- ・ 土壌中、特に根の周りに施用することで、有用微生物トリコデルマ菌が、根の表面を覆うように素早く増殖し、作物に害を及ぼす悪玉土壌微生物を寄せ付けず増えにくい環境を作ります。
- ・ 土壌・根圏の微生物相を改善し、作物の根の健全な生育を促します。
- ・ 対象作物、施用時期を選ばず、栽培期間を通じてしっかり土づくりをサポートします。
- ・ 善玉菌が繁殖しやすい、土壌消毒のガス抜き後の苗や土壌への灌注が最適です。
- ・ 水和剤タイプですので、使い方は簡単。所定濃度の希釈液を散布器、じょうろ、灌水チューブ等で苗や土壌に灌注します。

所定濃度の希釈液を散布器・ジョウロ・かん水チューブ等で土壌灌注します。  
注)育苗期に使用する場合、10a当りに植える株数に応じて水量や濃度を調整してください。



# トリコデソイル®

有用微生物入り土壌改良資材

## [標準的な使用方法] 目安として水で 500~2000 倍に希釈して施用してください。

栽培場面	栽培方法	作物名	トリコデソイルの必要量	希釈水量*	使用時期	使用頻度	施用方法
育苗	セル型トレイ ペーパーポット (約30x60cm)	野菜類 花き類	1g /トレイ	500ml /トレイ	育苗初期	1回	じょうろ等で 灌注
	ポット育苗		25~50g /1000株	50~100L /1000株			
本圃	土耕栽培	野菜類	125~250g /10a	500~1000L /10a	定植時	1回	植溝灌注
		果樹類 茶 花き類			定植後 ***	1~3ヶ月 毎	じょうろ、 散布機、 灌水チューブ** で灌注
	ロックウール/ ココピート培土 (養液栽培)	野菜類 花き類	125g /10a	250~500L /10a	定植時	1回	灌注または 灌水チューブ** を使用
			定植後	毎月施用			

\* 希釈水量は目安であり、作物や土壌の状態により適宜変更しても差し支えありません。

\*\* 養液栽培でサンドフィルターが設置されている場合はトリコデルマ菌が吸着されてしまう可能性があるため、サンドフィルターと圃場との間に液肥混入装置を設置してトリコデソイル希釈液を混入してください。

\*\*\* 果樹類や多年生の野菜類は、周年施用できます。

※対象作物でご不明な点がございましたら、お問い合わせください。

## [散布液の調製方法] トリコデソイルの調製例 (約 10a 分 250g 2000 倍希釈で 500L 作る場合)

